

I. 利用の手引き

本書は、労働統計を組み合わせて新たな指標を計算する方法と結果を集めたものです。言わば、労働統計の加工指標事例集です。次ページ以降に、取り上げた 55 の指標の名称を、21 のカテゴリーに分けて掲げました。

各指標の説明は独立しています。関心のある指標を拾い読みしても構いません。巻末には索引と、一部の指標の数学的な補注を載せました。

各指標の説明は、

- ① 指標の解説、② 指標の作成結果、③ 作成結果の説明、④ 指標の作成方法、⑤ 指標のデータ

の 5 項目から構成されます。

① 指標の解説

意味、取り上げる理由、解釈など、全般的な解説です。

② 指標の作成結果

グラフを使って、作成した結果を示します。

③ 作成結果の説明

②の作成結果の説明です。

④ 指標の作成方法

計算方法をなるべく具体的に説明します。

⑤ 指標のデータ

作成した指標の数値です。この数値をもとに②のグラフを作成します。

指標によっては、必要に応じ、関連事項の解説や関連する指標の紹介を⑥として追加します。

読者の皆様にあった方法で、本書をご活用いただければ幸いです。

労働統計の加工指標一覧

カテゴリー	指標	掲載頁
1. 労働投入量指数・労働生産性指数・賃金コスト指数	1.1 労働投入量指数	p.8
	1.2 労働生産性指数	p.12
	1.3 賃金コスト指数	p.15
2. 労働分配率	2.1 6通りの計測方法による労働分配率	p.18
3. 労働の質指標	3.1 労働の質指標	p.24
	3.2 労働の質を考慮した就業者数	p.26
4. パートタイム労働者	4.1 パートタイム労働者比率	p.31
	4.2 パートタイム労働者の労働費用	p.34
5. 就業分野の男女差	5.1 就業分野の性差指数	p.38
6. 出向者、単身赴任者等	6.1 出向労働者比率	p.42
	6.2 単身赴任割合	p.44
7. 各種の失業指標	7.1 産業別雇用失業率	p.48
	7.2 職業別雇用失業率	p.51
	7.3 雇用形態別失業率	p.53
	7.4 学歴別失業率	p.56
	7.5 長期失業指標	p.58
	7.6 失業継続期間と失業頻度	p.61
	7.7 損失所得を考慮した完全失業者数	p.68
	7.8 日本におけるU1～U6	p.73
8. UV分析関連指標	8.1 均衡失業率	p.79
	8.2 ミスマッチ指標	p.89
9. 失業者世帯の収支	9.1 勤労者世帯と失業者世帯の支出格差	p.92
10. 過剰雇用の推計	10.1 生産性方式による推計	p.99
	10.2 人件費比率方式による推計	p.103
11. 労働移動関連指標	11.1 転職率	p.106
	11.2 転職希望率	p.113
	11.3 産業間・職業間転出割合	p.116
	11.4 労働力配分係数	p.119
	11.5 事業主都合・自己都合離職率、会社紹介転職者割合	p.122
	11.6 同一企業への定着率	p.125
	11.7 同一コーホートの入職率・継続就業率	p.131
	11.8 平均勤続年数	p.134
12. 雇用創出・喪失指標	12.1 事業所の開業率・廃業率	p.138
	12.2 新規開業による雇用増	p.143
	12.3 倒産発生率	p.145
13. 所定内給与の賃金格差	13.1 所定内給与の賃金格差	p.147
14. ラスパイレス賃金指数	14.1 ラスパイレス賃金指数	p.160
15. 各種の賃金格差・分布	15.1 就業形態別賃金格差	p.194
	15.2 男女間賃金格差	p.198
	15.3 標準的労働者と中途採用者の賃金格差	p.201

労働統計の加工指標一覧

カテゴリー	指標	掲載頁
16. 退職金の格差	16.1 退職金の学歴間格差	p.205
	16.2 退職金の規模間格差	p.208
17. 労働移動に伴う賃金・所得変動	17.1 転職による賃金変動 D.I.	p.211
	17.2 転職による退職金減少率	p.215
	17.3 転職による生涯所得減少率	p.218
18. 所得の不平等度指数	18.1 ジニ係数	p.221
19. 職階関連指標	19.1 部長・課長比率	p.226
	19.2 部長・課長の部下の数	p.230
	19.3 女性役職者割合	p.234
20. 勤労者生活関連指標	20.1 勤労者生活指標	p.236
21. 生涯賃金など生涯に関する指標	21.1 生涯賃金	p.241
	21.2 雇用者の平均引退年齢	p.258
	21.3 生涯労働時間	p.261
	21.4 同一コーホートの生涯労働時間	p.269
	21.5 生涯時間当たり賃金	p.273

(各カテゴリーの概要)

1. 労働投入量指数・労働生産性指数・賃金コスト指数

労働投入量指数は、生産活動に利用された労働力を測る指標です。次に、計算した労働投入量指数を用いて、労働生産性指数を計算します。これで単位労働力当たり（就業者 1 人当たり、1 時間の労働当たりなど）の生産量がわかります。そして生産物 1 単位当たりには要する賃金を表す賃金コスト指数を求めます。

2. 労働分配率

労働分配率とは、生み出された付加価値のうち労働者がどれだけ受け取ったのかを示すものです。6 通りの方法で計算します。

3. 労働の質指標

同じ 1 単位の労働投入でも、勤続年数などによって生産への貢献が異なることが考えられます。賃金の違いを利用して、労働の質の変化が現れる指標を試算します。

4. パートタイム労働者

パートタイム労働者の比率や労働費用を計算します。

5. 就業分野の男女差

就業者の男女の構成比は、産業、職業によって異なります。男性が多い産業もあれば、女性が多数を占める職業もあります。就業分野による性差の程度を示す指標を計算します。

6. 出向者、単身赴任者等

出向労働者や単身赴任に関する指標を計算します。

7. 各種の失業指標

産業別、職業別、雇用形態別など、様々な属性の別にみた失業率を計算します。また、労働力のフローデータを利用した失業頻度や失業継続期間の計算を紹介します。さらに、一般に用いられる失業率を含め 6 通りの失業指標が発表されている米国にならない、これらの日本版を計算します。

8. UV 分析関連指標

失業率の分析手法に、欠員率との関係を見て、失業率を構造的・摩擦的部分と需要不足部分に分ける UV 分析があります。この UV 分析の計算を紹介します。

9. 失業者世帯の収支

失業が家計に与える影響は、世帯主が失業するかどうかで変わると考えられます。勤労者世帯と世帯主が失業した失業者世帯の支出格差をみます。

10. 過剰雇用の推計

日本の雇用調整は、残業時間の削減や配置転換から始められ、直接的な解雇は最終手段なので、企業は生産量に見合う水準を超える過剰雇用を抱えるという指摘がよくあります。過剰雇用の大きさを 2 通りの方法で計算します。

11. 労働移動関連指標

転職率をはじめとした労働移動に関連する指標を計算します。

12. 雇用創出・喪失指標

雇用は事業所の新設や拡大によって創出される一方、事業所の廃止や縮小によって喪失します。事業所の開業率・廃業率、新規開業による雇用増などを計算します。

13. 所定内給与の賃金格差

賃金は、年齢や企業規模、産業、地域などによって格差がみられます。所定内給与の格差に関する指数を計算します。

14. ラスパイレス賃金指数

通常の賃金指数は、特定の年の労働者の賃金水準を 100 として各年（月）の労働者の平均賃金の水準を表すものです。個々の労働者の賃金に変化がなくても、労働者の構成（学歴別構成や年齢構成など）が変わることで変動することがあります。労働者の構成を固定した賃金指数（ラスパイレス指数）を計算します。

15. 各種の賃金格差・分布

各種の賃金格差を示す指標を計算します。就業形態による格差、男女間の格差、中途採用者と標準的労働者の格差を取り上げます。

16. 退職金の格差

退職金の支給額は、学歴や企業規模によって格差がみられます。ここでは退職金の格差指標を計算します。

17. 労働移動に伴う賃金・所得変動

転職に伴う賃金や退職金の変動、さらに生涯所得の変動をみます。

18. 所得の不平等度指数

所得の格差の程度を示す指標として知られているジニ係数を、全世帯と勤労者世帯について計算します。

19. 職階関連指標

部長や課長などの職階に着目した指標を計算します。女性の役職割合もみます。

20. 勤労者生活関連指標

勤労者生活の状況を一つの数字で表す指標を試算します。所得、消費、健康、余暇など7分野ごとに、さらに全分野計で行います。

21. 生涯賃金など生涯に関する指標

労働者の生涯賃金（労働者が生涯に得る賃金の総額）、平均引退年齢、生涯労働時間などを計算します。

(各指標の説明方法)

各指標の説明は、①指標の解説、②指標の作成結果、③作成結果の説明、④指標の作成方法、⑤指標のデータの5項目から構成されています。各項目の内容は次のとおりです。

①指標の解説

そこで取り上げた指標が何を意味しているのか、なぜその指標が取り上げられたのか、その指標はどのように解釈されるのかなど、その指標についての全般的な解説をしています。

②指標の作成結果

指標を実際に作成した結果を紹介しています。グラフを多用して視覚的にわかりやすくしてあります。

③作成結果の説明

②で示した作成結果の説明をしてあります。グラフから何が読みとれるのか、なぜそのような結果になるのかなど、その背景などにも触れるようにしました。

④指標の作成方法

指標の計算方法をなるべく具体的に説明しています。

⑤指標のデータ

作成した指標の数値を示しています。この数値をもとにして②のグラフを作成しています。

なお、指標によっては、必要に応じて関連事項の解説や関連する指標の紹介を⑥として追加しています。

本書はいろいろな読み方ができます。はじめのページから順に読み進める

こともできますし、各項目は独立した内容になっていますので、加工指標の一覧表から関心のあるところを選んで「拾い読み」をしても構いません。また、巻末には索引が設けてありますので、調べたい内容を探してみることもできます。さらに、一部の指標については、数学的な補注も加えてあります。読者の皆さんにあった方法で、本書を十分に活用いただければ幸いです。